

千葉県九十九里海岸の利用者意識調査

日本大学大学院 学生会員 前澤正義
 日本大学大学院 学生会員 高橋直大
 日本大学理工学部 フェロー 竹澤三雄

1. まえがき

九十九里海岸は飯岡町の刑部岬～岬町の太東崎までである。本研究は、九十九里海岸の九十九里町片貝海水浴場、大網白里町中央海水浴場を調査対象地点とした。九十九里町、大網白里町は、太平洋に面した美しい砂浜海岸を有し、海からの多くの恩恵を受けてきた町である。また、首都圏から60km圏内と比較的近いことから、毎年、県内外から大勢の観光客や海水浴客が訪れ賑わいを見せている。近年では、ライフスタイルの変化から海水浴だけでなく、散策、海釣り、サーフィン、PWC¹⁾などを目的とした利用客も少なくない²⁾。そのため、海岸は、夏季だけでなく、通年利用されている。その受け皿として「海の家」が整備されてきているが、近年、「海の家」の経営者同士の摩擦や駐車場の取扱いなどによる管理マナーの悪さが指摘され問題となっている。そこで行政側は、たとえば、九十九里町の不動堂海水浴場における海の家撤廃命令、片貝海水浴場の海の家3ヶ月間短期占有許可、大網白里町の中央海水浴場における海を家の通年占有営業制限など行政管理を施行し始めた。本研究は、九十九里海岸の町民が構築してきた九十九里海岸の現状を知るため、海岸の利用状況、海岸利用者の意識、海を家の現状を現地調査し、また、九十九里町ならびに大網白里町の地方自治体の方針、ならびに九十九里海岸の現状と利用者の求める海岸について考察した。

2. 研究の方法

九十九里海岸の九十九里町片貝海水浴場、大網白里町中央海水浴場について、現地海岸の一般利用者に対するアンケート調査と海岸を管理する各地方自治体でのヒアリング調査を行った。調査の期間は8月1日から8月31日までの1ヶ月間である。また、アンケート調査の対象者数は、200人であった。一般利用者へのアンケート内容は（1）性別（2）年齢（3）利用目的（4）海を家の利用について（5）海に対するイメージについて（6）PWCについての評価（7）サーフィンについての評価（8）海の家についての評価（9）今後の九十九里海岸についての9項目である。

3. 結果と考察

表-1によると、海岸利用者は、20代が中心であり、海水浴を目的とした人が半数を占めている。40代を中心に家族連れで利用している人の目的は、海水浴が多い。サーフィン・PWCについては、片貝海水浴場はサーフィン、中央海水浴場はPWCを目的とする人が多い。海の家は、全体で約70%の人が利用しており、海水浴・PWC利用客の利用率が約85%と高く、散歩・サーフィン利用客の利用率は58%である。

表-1. 年代別による男女比・利用目的比 [利用者全体を100]

＼	10代	20代	30代	40代	50代	60代	小計
男性	5	21.5	15	6.5	1.0	2.0	51
女性	11.5	20	12	4	1.0	0.5	49
海水浴	12	11.5	11.5	6.5	0.5	0	42
サーフィン	4.5	11.5	2.5	1	0.5	0	20
PWC	0.5	5	7.5	2	0	0.5	15.5
散歩等	4	13.5	5.5	1	1.0	2.0	27

とくに、サーフィンを目的とする人の利用率が50%と低いのは、利用時間が明け方から早朝であるために、海の家が営業していなかったことがその要因であると考えられる。海のイメージについての評価は、利用目的

キーワード：海の家・海水浴・散策・海釣り・サーフィン・PWC

連絡先：東京都千代田区神田駿河台1-8 日本大学理工学部土木工学科・TEL/FAX:03-3259-0676

別による大きな差が無く、海は広く・明るいという評価が多数を占めた。海の清潔度については、サーフィンが目的の利用客はあまり関心を示さなかったが、PWC 利用客は清潔であるという評価が多かった。また、海に対する印象として、年齢層や利用目的別を問わず、長閑な田舎を感じさせるという評価が比較的多かった。来訪者の居住地からのアクセスについては、休日の帰りの渋滞に対する不満があったが、東金道路・東金九十九里有料道路がかなり整備されているため、それほど悪い評価にはならなかった。また、九十九里海岸には駐車場が併設されているために、駐車場から海までのアクセスについてはほとんど不満がなく、良い評価であった。海水浴客による PWC に対する評価は、概ね良好であり、サーフィンより安全で、マナーも比較的良いという評価を得た。この評価は、PWC が九十九里海岸で認知されているということを示すものである。さらに、サーフィン利用客の PWC に対する評価も良好であった。これは、サーフィンの利用客が PWC に対する敵対意識が無いことを示しているものと思われる。このように PWC に対する騒音・マナー・安全性の評価が悪くないことから、海面利用の区分化が進めば、さらに利用者間の関係は向上すると思われる。散歩等利用客の PWC の評価も概ね良好であるが、安全性については今後の向上が期待されている。海水浴客によるサーフィンの評価は、マナーと安全性にやや問題があり、サーフィン利用客のマナーの向上が求められている。海の家についての評価に関しては、清潔度の向上と過度の呼び込みの自粛、サーフィン利用客への対応が求められている。PWC 利用客は、使用できる海の家が限られているために海を必要に感じて高い評価を得たが、現在の海の家に対する清潔度の評価が低かった。散歩等利用客による海を必要に感じて高い評価も高く、海の家は海水浴客のみならず他の海岸利用客に対する海を必要とする多様化が進んでいることが明らかになった。九十九里海岸を訪れる海水浴客は、海の家が存続する必要性和他の海岸よりアクセスの点で利用しやすいと評価している。すなわち、67%の海岸利用客が、海の家のある九十九里海岸に好感を持っていることが明らかになった。この背景として、九十九里海岸は、首都圏から日帰りの利用客が多いことが挙げられる。九十九里海岸は、車を利用した日帰り利用客が圧倒的に多く、海水浴、サーフィン・PWC のほかに、気分転換を目的とした散歩など多種多様である。そして、九十九里海岸は、海水浴客のみならず、サーフィン利用客、PWC 利用客などからも、高い評価を得ており、今後、発展の余地が大いに残されていると考えられる。

一方、海を必要とする存在を含めた海岸管理の問題が地方自治体の中にある。現在、九十九里町と大網白里町では、海岸管理者である国と県から九十九里海岸の管理権を町に移行する準備をしている。しかし、両自治体ともに、町民の意向に耳を傾ける姿勢はあるが、九十九里町においては、海の家撤廃後の新たな施設を模索中であり、大網白里町も海の家問題について検討中である。こういった現状の中で、海を必要とする管理や海水浴客・サーフィン利用客・PWC 利用客など海岸利用者の管理についてどのような方法をとるかによって、今後、この地区の活性化に大きな問題を投げかけることになるものと思われる。たとえば、海の家を通年営業することによって、夏季シーズンの海水浴客から冬季シーズンの PWC 利用客まで対応できるのである。また、海水浴シーズンにおける海水浴客とサーフィンや PWC 利用客との利用海面の区分することによる安全性の向上が海岸管理者の重要な問題である。さらに、海岸利用者においても、海岸を利用する際のマナーと安全に対する各利用者間での意識の向上が必要である。

4. 結び

以上のように、九十九里海岸は日本有数の総合海岸であり、サーフィン・PWC 等の海レジャーと海水浴が共存している貴重な海岸である。したがって、町民と自治体の一体化、海岸利用者のニーズへの機敏な対応、海面利用のルール整備により、海岸利用者が安全に共存できる海岸である。九十九里海岸の発展は、九十九里海岸の礎である『海の家』の存在が大きく、海の家を中心とした日本最大の総合海岸へと発展できる可能性を秘めている。

- 参考文献 1) ワールドスポーツマガジン社：World Jet Sports, 2003.
2) JTB：るるぶ情報版、千葉・房総・茨城、2003.